

令和7年3月 市長臨時記者会見

令和7年3月13日(木)

午後3時 開始

【広報広聴課長】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから市長臨時記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 今日は記者クラブさんからお声がけをいただいて、新幹線開業1周年をもうすぐ迎えるというところで、こうやって場を設けていただいたことにお礼を申し上げたいと思います。

今日は私のほうから特に事業発表項目はございません。質疑応答ということになっておりますので、よろしくお願いします。

今も申し上げましたけれども、今週末には、3月16日ですけれども北陸新幹線開業1周年を迎えるということで、本当にありがたいことに、この開業1周年を記念いたしまして3月15、16日には、つるが街波祭ということで1周年の開業記念イベントが行われます。

去年もそうだったと思うんですけれども、駅のほうから金ヶ崎の港のほうまで、パンフレットではナンバー25までイベントナンバーが振ってありますけれども、これに加えてあと2つぐらい、またイベントも追加してということで、30近いイベントが今開催される予定になっております。

去年のつるが街波祭、開業を記念したときは、本当に敦賀のまちなかがにぎわったということは皆さんの記憶にも新しいところかと思えますけれども、1年たってこのようなイベントが開催されるというのは本当にうれしいことですし、これからも引き続いてオール敦賀体制でこの雰囲気盛り上げていきたいと思っております。

冒頭、私からは以上です。

【広報広聴課長】 それでは、フリーの質問対応をさせていただきたいと思います。

初めに幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 今も市長のほうからご挨拶いただきましたけれども、改めて開業1年を迎えるということで、1年目いろいろ観光客の入り込み数であったりとか、おおむね順調なスタートなのかなと思うんですけれども、改めて1年間の総括と、あと2年目以降、3年目に向けての決意といいますか思いをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 本当に今おっしゃっていただいたように、数字として、例えば市内の観光施設、市で持っている観光施設もありますけれども、その入り込み数だったりとか、あるいは、ぐるっと敦賀周遊バス、それからレンタサイクル、そうしたものの数字というのは大体1.3倍、1.4倍など押しなべて上がっています。それから通行量ですね、歩行者だったり自転車だったりというのも、大体平日も休日でもですけども1.3倍から1.5倍、中心市街地では伸びているということがあって、いずれも前年度比ということになりますけれども、少しまちの風景は変わったねというようなことも言われます。そういうのは本当にありがたいなと思っています。

あと、お客さんだけではなくて、本当に頑張っていらっしゃるというのが、事業者さんのほうも新幹線開業前後で、補助金を使っていた件数を見ても新規開業、それから改修、合計で60件ということになっていますので、なかなかそれでもシャッターが閉まっているところがまだあると言われるものの、実際の数字としてシャッターも開いてきている、お店ができてきているということもあり、そういうところは民間の方々の頑張りに本当に敬意を表したいと思っています。

これからということではありますと、先日、まちづくりのアクションプログラムを発表させていただきまして、ハード面、ソフト面でこういうことをこれからやっていこうと。それも役所だけではなくて、みんなでやっていこうということでお示ししましたけれども、そういうことを実施、実行していくことによって、今後課題になるのは、この開業効果、それから新幹線効果をなるべく長く続けること。先ほど前年比何倍という言い方をしましたけれども、この何倍というのをずっと確保していくこと。

それから、なるべく市全体に、全域に、あるいは市外のほうに向けてもこの効果を広げていく必要というのは、これが今後の課題になると思いますので、先ほど申し上げましたアクションプログラムを着実に実行していくことで、開業効果、新幹線効果をより長く、より広く伝えていけるようにしたいなと思っています。

【記者】 今も少しお話しいただきましたけれども、一つ大きな課題としては敦賀は盛り上がっているけれどもということで、それ以西のエリアとなるとなかなか恩恵が少し乏しいのかなという感じもありますけれども、玄関口として、いろんなプログラムもアクションプログラムに盛り込まれていますけれども、嶺南全体への波及というところにおいての敦賀の果たす役割については、どのようにお考えでしょうか。

【市長】 今ゲートウエーという言葉があったんですけど、本当に敦賀のポジショニング

というのはそういうことだと思うんですね。

敦賀がゲートウエーで、敦賀に来ていただいて、例えば観光地で言っても、敦賀だけで2日間とか3日間とか過ごしていただいても全然いいんですけども、例えば私が関東のほうに行って観光のプロモーションをやったときに自分でも思ったんですけども、敦賀の観光地でどういうところがありますか、こういうところがありますよと紹介する。ほかにありますかということと言われたりするんですよ。

そのときにやはり、敦賀のことはもちろん言うんですけども、近くに三方五湖もあるよねとか、年縞博物館もあるよねとか、小浜に行ってもお寺とかあるよね、南越前町のほうに行くと北前船の集落があるよねということは、やはり言いたくなるんですよ。

ということは、敦賀の周りに敦賀だけではなくていいところがいっぱいありますし、そういうところの魅力を伝えていくことによって、敦賀に人が来て、敦賀にはホテルがいっぱいありますのでそこで宿泊して、いろんな周辺のところを回っていただく。そして敦賀で食事をする。別にほかのところでしていただいてもいいんですけども。

敦賀から帰るということであれば、またお土産も買っていただくと思いますので、全体のお客さんを増やすためにはやはり周りと連携してやっていくということが必要だと思いますし、そうすれば先ほど言いました自然と周辺部にもだんだん人が流れていくのかなと思っています。

敦賀市としては、そういう役割をしっかりと果たしていこうということは思っています。

【記者】 今のお話の中にもあったんですけど、商店街の再整備事業、補助金の点について。

60件、新規と既存店舗の改修などを含めて採択されているということで、順調に空き店舗が埋まりつつあるというお話も伺っているんですけど、今後、駅周辺エリア、商店街の盛り上がり期待したいことがあればお願いします。

【市長】 多分課題になっているのが、やはり飲食がまだ足りていないというところがあります。今、駅周辺にビジネスホテルがあって、それに対してのその周りの飲食は、まだ数としては足りてないんだろうなと思いますし、今度、本町通りのほうにまた一つホテルができますので、そういうことを考えると、もう少しあのエリア全体で飲食の数があってもいいのかなと思っています。

ということは、やはりそうやってどんどん新規店舗というのがこれからもできる、ビジネスチャンスはあると思うので。

今のところ、先程の補助金の申し込みとかも、まだ順調に。ペースはほとんど変わっていないんですよね。新幹線開業後もペースは変わらず申し込みがありますので、そういう中で、今までシャッターが閉まっているところが多いよねと言われていたような状況が変わっていきばいいかなと思います。

多分その次に課題になるのが、そこで働く人の人手を確保できるかなどという話になってくるので、そこは人口減少対策と絡めて行政も頑張っていくべきところなのかなと思っています。

【広報広聴課長】 それでは次に、各社さんよりお願いいたします。何かございますでしょうか。

【記者】 想定と違った点であったり、課題に対応して改善していった点があったら教えてください。

【市長】 想定と違った点は、思ったよりも飲食が足りてなかったなというのは思っていますね。結構お客さんと話をすると、そのところは言われるので。そこはさっき課題で言ったというのは多分そういうところですね。これは課題だなと思っているということは、思ったよりもお客さんに来ていただいているような気がしますので、そこに対して対応がまだできてなかったなというのはあると思います。

それから、あとは幾つかトライしたことはあって、それが1年たって思ったより例えば利用が少なかったなとか思うのでいうと、例えばレンタカーだったりとか、そういうのは、いろんな補助とかのメニューも用意したんですけども、あまり数的には伸びなかった。

それが多分、敦賀から離れたところに人が流れていってないと言われるときもあるんですけど、そういうところも絡んでいるのかなと思います。

【記者】 人が増えたというのは、お話しいただいたとおりかと思うんですけども、開業前には一部では、よく新幹線開業するときに言われるストロー現象だとか、デメリットの面が出るのではないかというような声も一部ではあったかと思うんですけども、そういったデメリット面で何か出てきていることであるだとか、お気づきになったことはございますでしょうか。

【市長】 今のところ感じてないですね。そういう話もほとんど聞かないですね。新幹線ができて困ったなみたいな話などは聞かないですね。

どちらかというとメリットの話のほうが聞くことが多いです。

【記者】 年明けにアクションプログラムが始まって、市街地の開発、いろいろ着手され

てきていると思うんですけど、街波祭が始まってというところで、新幹線も2年目に入るということで、これから効果を最大化させていくというところで、1年を通して感じて、これから何をしていかなきゃいけないという課題を持って取り組んでいくのでしょうか。お願いします。

【市長】 これも先ほど課題のように申し上げましたけれども、アクションプログラムというのは継続して着実にやっていく。アクションプログラムに書いてあるということは、結局今足りてないものが書かれていると思いますので、それを着実にやっていくというのが大事なんだろうなと思っています。

あそこに書いてあることは、ある意味、課題の裏返し。例えばインバウンドにしても、それが今できてないから書いてあるというところもあるので、着実にやっていくというのが一つ大事なかなと思っています。

あと、あそこに書かれてない感じにはなるかもしれませんが、この前、市議会でもいろいろご質問いただいたんですけど、市民の中には新幹線効果がまちなかに限定的なんじゃないかと。自分のところはあまり変わらないけどねというような話がありました。自分のところというのが、これが地域だったり、あるいは業種だったり、そういうところで濃淡があるというところだと思うんですね。

議会の答弁でも申し上げたんですけど、それはやっぱり人が来たら宿泊は駅の周辺で新幹線とかそういう場合にはするだろうし、そうするとその周りの飲食がにぎわうというのは、これはある意味必然的なことだと思うんですけど、ただ、そこに働いている人であったり、経営者も含めてですけど、それは必ずしもそこに住んでいるわけじゃなくて、ほかの周辺地域に住んでいるかもしれないし、例えば飲食だったらそこで使っている食材、お米や海産物、カニとかエビとかそういうものにしても、中心市街地で取れるわけがないので、その周辺のところで取れるところ、中心市街地で消費しているというところで、本当だったらもうちょっと周辺も恩恵があるということで間違いないと思うんです。それをもうちょっと見える化するなど、実感を持ってもらえるような何かいいやり方がないかなというのは一つ思っています。

さっき課題のところと言わなかったんですけど、そういうところはやっていきたいなと思っています。

【記者】 アクションプログラムを先にやっていくというところですか。先にやっていて、その後という感じになるのか、同時並行的に。

【記者】 同時並行だと思います。アクションプログラムは、あの中には我々がある意味タッチしないところもあるんですよね。民間でやってもらったりとか、ほかのプレーヤーがやってもらうようなところもあるので、あれはどんどんやっていけばいいと思います。自分たち役所が関わる場所はもちろんやりますし。

それ以外という、あそこにも当然あるんだろうけれども、ちょっと我々が気をつけなきゃいけない課題として、今申し上げたような業種だったり地域の濃淡というのを解消する、あるいは本当に恩恵はあるはずなので、それを分かりやすく示していくというようなことができたと思っています。

【記者】 ずばりこの1年、いわゆる終着駅効果とか開業効果、こういった効果があったかどうかというところで言いますと、市長の実感としていかがでしょうか。

【市長】 一言で言うと、あったと思います。確実にあったと思いますね。

先ほど申し上げたとおり、実感という意味では、みんながみんなというわけではないですけれども、まち全体として考えたとき、敦賀市全体として考えたときは確実にあったと思います。

それから、これってなかなか、さっき言ったように市民全員が感じているわけではないというところは多分あるんですけれども、外からよく、敦賀市は本当に今、新幹線効果、開業効果というのを享受している地域だということはすごく言われます。それは外から見ていると客観的に実際そうなんだろうと思います。

【記者】 先ほど数字のほうも1.3倍、4倍、5倍みたいな形で上がっているという数字が挙げられた中で、だんだん時がたっていくと少しずつ落ち着いてくるとは思うんですけれども、特に開業半年後以降の落ち方ではないですけれども、半年後以降の数字で出てくるデータについて、市長ご自身、思ったよりも維持しているですとか、思ったよりも落ち込みが進んでいる、そういったところの印象はいかがでしょう。

【市長】 思ったよりも維持しているなど。これは数字の話として、思ったより維持していますね。

ずっと新幹線開業前から市役所の中でも議論をしていたんですけれども、ピークは立つと。一回上がるのは間違いない。そこから多少なりとも落ちるのも、それは落ちるんでしょうと。ただ、落ち幅を少なくして、開業前よりもちゃんと上がっている部分があるということをしてできるだけ長く続ける。もっと言えば、ずっと続けるということが大事なんだろうと思っていますので、今はこれからアクションプログラム等でやる取組というのはそう

いうことなんだろうと思っています。

【記者】 先ほど飲食店のほう、ファンドのほうを使って多数増えていっているというようにお話もありましたけれども、一方で、ottaの飲食エリアでは現在も全部が埋まっているという状態ではないということで、駅に近いんですけれども、そういった空いてしまっているという、なかなか飲食店が足りないといってもそういう矛盾じゃないですけれども、そういったのが現状としてあります。

そこに関しては現状どういうふうに受け止めていますでしょうか。

【市長】 あそこ結構場所もいいので、チャレンジしてお店を出していただいたところには本当に感謝はしたいんですけれども、やっぱりその後の経営というところでいいますと、それぞれの会社さん、事業者さんの頑張らなきゃいけない部分というのは、我々のほうではなかなか難しいところがあります。

これから補助金を出すに当たっても、いろんな厳正な審査というのもやりながらですけれども、いざ事業を始めて難しかったなとかいうことがottaじゃなくてもいろんなところで出てくるかもしれないと思っています。

そのあたりは、もちろん事業者頑張ってもらわないと、先ほど言いましたように我々がどうすることもできないところはあるんですけれども、例えば商工会議所などで経営指導というか、そういう経営のセミナーとかもやっていただいていますし、これからチャレンジする若い人たちも出てくると思いますので、そうした方々が円滑に事業を進められるような、そういったことは商工会議所とも相談しながら取り組んでいけたらと思います。

ottaに関しては、どんどんチャレンジする会社、事業者さんが出てきてほしいなと、店舗を埋めていただけるといいと思っています。

【記者】 敦賀以西のルートについてなんですけれども、昨日ですかね、石川県、お隣の知事さんも米原ルートというようにお話も従前からおっしゃっていますけれども、改めてお話もありましたけれども、先日、県議会なんかの意見の中でも、知事は先頭に立たれて京都ルートということでやっていらっしゃいますけど、地元の盛り上がりという点で少し不足しているんじゃないかというような、そういうような指摘も議員さんから出ていたようですけれども。もちろん一番頑張らなきゃいけないのは小浜近辺かなと思いますけれども、改めて地元での熱の高まりに向けてといいますか、敦賀市長としてどのように小浜京都ルートについて、現在のお考えも含めてお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 まず日本全体を考えたときに、私どう考えても小浜京都ルートのほうが合理的

だと思っているんです。私、敦賀市長になる前というよりも、敦賀に住む前、大阪に住んでいる頃から思っていたことなので。米原ルートというのは、ちょっとないかなと思っています。

日本全体として考えてもそうですし、あと先ほど一番頑張らなきゃいけないのは小浜だというお話があったんですけれども、去年3月16日に北陸新幹線が敦賀まで開業しました。たしか3月23日だったと思うんですけれども、それまで我々が持っていた期成同盟会、50年間ずっとやってきた期成同盟会をそれをもって活動をやめたんですね。会を解散したということをやりました。それは一定の役割を終えたということと、あと小浜京都ルートに関しては、その期成同盟会があるので、そこにバトンタッチするという形でやめたんですけれども、やめたときの会、最後の会をサンピアでやったんですが、そのときに私、挨拶で申し上げたのは、やっぱり早く大阪につないでほしいと。それは確かに今、終着駅効果というのは敦賀には出ていると思うんですけれども、これから敦賀のまちづくりとか、あるいは人口減少対策を考えたときに、京都まで29分、新大阪まで44分で行けるということは、通学通勤圏内に入ってくるんですね。

今までだったら大阪の大学に行って、そこで関西、大阪で就職先を見つけたら大阪に住むということでしかなかったんですけれども、あのときだと20年以内にはできると思っていましたので、例えばこれから生まれてくる子どもたちや、もう既に生まれている子どもが大学卒業したときに、敦賀から大阪の会社に通うということが選択肢として出てくる。それが北陸新幹線の敦賀以西の私、意義だというか、我々にとっての意味だと思っていて、それに向けて20年かけて、それに合うような、フィットするようなまちづくりをやっていかなきゃいけませんよねという話をその会でさせていただいた。

それは多分、米原ルートではそうはならないと思うんです。乗り入れは技術的にできるという人もいますが、実際にそのときに本当にできるような本数だったりするのかと。北陸新幹線が遅れるということは、リニアだってそんな順調に工事が進むと思えないので、そんなタイミングよく米原で乗り換えなしでとかいう話があるのかというと、それは技術的に可能だけど、そのタイミングでできるかどうかなんて絶対分らないと思うんですよね。

かつ、複軸化という意味でも中途半端だと思いますし、あと、乗り換えをもしあそこでやるんだということになると、敦賀駅ですらあれだけ乗り換えにある意味特化した構造にした新幹線駅ですら、乗り換えいろいろ難があると言われていて、今は割と順調に行って



いると思うんですけど、米原駅でとてもできると思えないんですよね。

そう考えたときには、やっぱり小浜ルートが合理的だと思いますし、小浜ルートでつないでこそ時間的にも短くなるから、敦賀というまちづくりが違う局面で考えられると思っていますので、小浜市にとっても大事だから小浜市に頑張っていただくというのはそうなんだと思いますけれども、敦賀としても変わらず、北陸新幹線敦賀開業までと変わらず、この以西ルートについても取り組んでいきたいと思っているということです。

ちょっと付け加えて言うなら、それにしてもやっぱり通るところの同意というのはもちろんそれは大事なので、例えば京都で言えば地下水の問題とか言われていますから、そこは国やＪＲＴＴ、そうやって整備を進めていく関係者が科学的、それから技術的な知見をしっかりと地元と共有していただいて、一刻も早く認可着工ということになるといいと思っていますし、そのように関係の皆さんには努力していただきたいと思っています。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長臨時記者会見を終了いたします。

午後３時２８分終了